

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102956
法人名	(有)サカイコーポレーション
事業所名	グループホーム 楓
所在地	宮崎市大字郡司分甲1570番地1 (電話)0985-56-2277
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(平成20年 5月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 350/E円	
敷 金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(5 月 11 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.9 歳	最低	78 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	善仁会病院 南部病院 野崎病院 日高医院 山内ファミリークリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの南側は田畑で、遠くに双石山を眺め、日当たりの良い広々とした玄関前にはプランターに花が植えられ、室内外とも清潔で明るく訪問しやすい風情となっている。ホームの横には「蛍の里」としてせせらぎの水路があり、夜は室内の明りが洩れないようにするなど地域の人に配慮している。利用者と職員が家族のように、歌ったり習字をしたり食事をして、落ち着いた楽しい生活が営まれている。保育園児・学生やボランティアの人たちが訪れ、夏祭りも盛大に行われており、地域に密着したホームとしてこれからも益々努力されることを期待したい。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアプランは、個人ファイルにも綴じてあり、職員は担当利用者の計画に添った経過を毎月の担当者会議で報告している。利用開始時に重度化した時の方針を決め、家族と話し合い、同意書をもっているが、状態悪化した場合は本人、家族、主治医と相談し適切な医療を受けられるように支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は全職員で改善に取り組み、自己評価についても、評価項目を分析・反省するとともに、職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、行事や、ケアの実施状況、自己評価について報告し助言等を得ている。保育園児との交流や地区の祭りの神輿の休憩所にするなどの取り組みにつながっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族会代表の出席や、家族会も年2回開催し意見等を出せる機会を設けている。また、職員は名札を付け家族来訪時にどんな些細な事でも話し、意見を言いやすい雰囲気作りと責任を持って対処するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの横にはせせらぎの水路があり、蛍の里として夜は室内の明りが洩れないようにするなど協力している。また、地域の夏祭りの参加や保育園児やボランティアの訪問も受けている。地域の老人会に参加できるように働きかけをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域の人々の生活に馴染んだサービスの提供」を掲げ、地域の中に溶け込み、時には保育園児や、小学生、ボランティアの人たちが訪れるなど落ち着いた生活ができています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内の要所に理念が掲示してあり、迷いのある時は理念を念頭に日々の介護を行い、毎月の全体会で全員で唱和し、意識の高揚を図るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム横に地域で取り組んでいる蛍の里 せせらぎの水路があり、夜はホームの明りが洩れないようにするなど協力している。地域の夏祭りに庭を子供みこしの休憩所に提供したり、保育園児やボランティアの訪問を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は全職員で改善に取り組み、自己評価についても、評価項目を分析・反省するとともに、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、行事や、ケアの実施状況、自己評価について報告し助言等を得ている。保育園児との交流イベントなどにつながっていることや神輿の休憩所になる等がある。		運営推進会議に利用者、自治会の代表者、地域住民、地域包括支援センターや行政の職員、時には、消防署や警察関係者等の出席がホームを理解し協力を得られる機会作りとなるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や町の担当者と情報交換や、ケアプランの相談をしたり、サービスの質の向上に反映させている。また、介護相談員の訪問を受け質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の暮らしぶりは2か月毎の「かえで通信」で、家族の来訪時には健康状態や日常の些細な事でも話して信頼関係を築くようにしている。預かり金は個別に出納帳で管理し、定期的に報告しサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族会の代表も出席し、また家族会も年2回開催し意見等を出せる機会を設けている。職員は名札を付け、家族来訪時にどんな些細な事でも話し意見を言いやすい雰囲気作りと、責任を持って対処するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の職員の異動は、事前に説明し、利用者の様子をみながら段階的に取り組み、一人ずつ徐々に夜勤などの勤務をしながら異動後の職員紹介をするなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けた職員は、全体会で資料により報告をしている。また、資格取得の研修や施設内トレーニングで習熟度に応じた研修をし、外部施設での研修も取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修などを通じて交流の機会を得て、外部施設での研修等の交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が会いに行ったり、昼間にホームで食事をしていただくなどして、ホームの雰囲気を知ってもらうように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や職業歴を知ることで、日常の介護の考え方や接し方、技術の向上に活用している。台所に立つと落ち着く利用者から料理を教えてもらったり、園芸の好きな利用者や花の手入れをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族の意向を聞いたり、日常生活の中で意識的に情報を取り、本人や家族の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員の行った介護計画の評価を基に全体会議を開き、家族と利用者の思いや意向にそった安心で安全を目指した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の記録がケアプランに添ったものになるように個人ファイルの中に綴じ込まれており、職員は担当利用者の介護計画の経過を全体会議後の担当者会議で毎月報告し、3か月に1回介護計画の見直しをしている。		毎月の担当者会議での経過報告を毎月の介護計画の見直しに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、受診や外出、外泊する人の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を受診している、他は、協力医療機関に毎月定期的に往診をお願いし情報を交換している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した時の方針を決め、家族と話し合い、その同意書をもっているが、状態悪化した場合は本人、家族、主治医と相談し適切な医療を受けられるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の中に「人格を尊重する介護」を謳い、職員は、日常的に利用者に対する言葉かけや介護する態度で実践している。個人記録の取り扱いにも注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに応じて、食事や入浴などゆっくりとした介護に努めている。また、レクリエーションも本人の意向や趣味に沿うよう用意して、その人が満足できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で採れた旬の野菜などを利用者とともに調理し、食材や季節の話しながら家庭的な雰囲気の中で、職員も一緒に食事をして、下膳、後片づけも一緒にされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本にしているが、本人の状態や、希望に沿っていつでも入浴出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間に大きなソファを置き団欒がもてるように工夫し、利用者それぞれに応じたひとときを楽しんでいる。職員は利用者の表情や発語を大切に、生活歴に応じた対応から楽しみ事を引き出す努力をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態に応じて、菜園で芋掘りや収穫、ホームの周りの散歩、花見など外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動パターンを把握し、常に視野の中に入れておくように心がけており、玄関などに、センサーをつけているので日中玄関の鍵はしていない。		センサーの音など心理的な負担への配慮と、センサーがあることで介護者が安心しないよう、鍵をかけない意識を高く持ち続けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を配置し、年2回防災訓練・避難訓練などを警察署・消防署などの実地指導を受けている。ホームの建物には、排煙装置を設置している。		夜間を想定した避難訓練の実施指導は受けているが、実際に利用者と避難訓練を地域住民の協力を得ながら実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や水分量、咀嚼力に応じた調理、繊維類を中心とした高タンパク質で栄養バランスを考慮した食事を心がけ支援している。2週間に1度体重測定を行い、記録・観察している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは清潔で、広いリビングは天窓で明るく、音楽や季節の花や飾り物、金魚が置かれ、和やかで居心地良くなっている。大きなソファではゆったりと午睡を楽しむ人もいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれに使い慣れた家具が置いてあり、また昔の写真や家族の写真、誕生会に皆から書いてもらった寄せ書きなども貼ってあり、落ち着き、安心して過ごせるように工夫されている。		